



い草の刈り取り研修に行ってきました！

7月10日～12日の3日間、畳表の材料である「イ草」日本一の生産地、熊本県にイ草刈り取り研修へ行ってきました。
昨年11月の田植え研修に続き、人生2度目の熊本訪問です。



前回の訪問から熊本では大地震があり、たくさんのイ草農家さんも被災されました。そんな中でも一生懸命イ草づくりに取り組まれていることをお聞きし、ぜひ自分の目で現状を見に行こうと決心しました。



羽田空港から飛行機で1時間40分かけ、熊本空港へ到着。
熊本空港は、**最大震度7**と最も揺れの激しかった益城町にあります。
空港も大きな被害を受けましたが、職員のみなさんの努力のお陰で地震4日後に運航を再開し、現在は多くの利用者で賑わっていました。

しかしまだまだ完全復旧とはいかず、空港唯一のレストランが野外で営業していたり、工事中で入ることのできないエリアもたくさんありました。



ですが、所々に「**がんばろう熊本!**」の文字が掲げられ、多くの支援に対する感謝の想いと共に復興に取り組む皆さんの活気を感じることができました。

待ち合わせのため空港のベンチで一休みしようとする、なんと。。。ベンチが「**畳ベンチ**」ではないですか! ヽ(o´▽`o)ノ しかも、くまモン柄の畳縁です。



さすがイ草の本場である熊本。
くまモンはやはり県民のみなさんに愛されているんですね(^ ^)



熊本上陸記念にくまモンと記念撮影。



これから熊本でどんな出会いと体験が待っているかワクワクです(´ー´)ノ 迎えに来てくれた問屋さんのお車で八代市に向かいます。

(研修1日目) イ草の刈り取り初体験

到着して一息つく間もなく、さっそく八代市のイ草農家さんを訪問します。
最初に訪問させていただいたのが中村静雄さんのお宅です。



中村さんは「有機栽培・減農薬栽培」にこだわったイ草作りをされており、熊本県
い草・い製品品評会でも熊本県賞二位を受賞されている農家さんです。

まずは、イ草の刈り取りを体験させていただくことになりました。
イ草の刈り取りはこの「イ草ハーベスタ」と呼ばれる機械で行います。
この機械は、イ草を刈り取りながら一定の量を束にしてくれます。



奥様が一人で機械を操作しながら、ポンポンとイ草の束を積み上げていました。
見ている分にはそんなに難しい作業には見えませんが・・・。
とりあえず、私も体験させていただきます。



長いもので170cmを超えるイ草が何百本と束になると、なかなかの重量になります。
熊本は茨城よりも気温と湿度が高く、その中での作業は予想以上に体力を奪われ汗ビツ
ショリです…(;´Д`)
刈り取りが一行終わると、一束ずつ根本を揃えて専用の箱に並べていきます。



シンプルな作業ですが、この工程をすべての田んぼの刈り取りが終わるまで何十回、何百回
と繰り返します。

並べ終えたイ草を見てみると、水を弾きツヤツヤでとっても綺麗です。



次に、刈り取ったイ草をご自宅の作業場に運び『井戸水のシャワー』で水洗いします。



水洗いをすることで汚れや虫などを落とすと同時に、冷たい井戸水が刈りたてのイ草の温度を下げ、製品の仕上がりを良くするためです。



慣れない気候と寝不足でボーっとしていると、シャワーを浴びている刈りたてのイ草が羨ましくなってきました…(´△`)



そんな私を見て、ある生産者の方が「刈り取りの時期は、誰よりイ草が一番偉いんだよ」と仰っていました。たくさんの愛情を持ってイ草を育てられていることが伝わってくる言葉でした。

泥パックでイ草を美しく

刈り取ったイ草は中村さんのお家に運び、「泥染め」をしていきます。
泥染めとは、刈り取ったイ草を泥の中に浸す工程。
江戸時代から行われている伝統的な技法で、イ草にとっては大切なお化粧作業です。



数ある種類の中の染土から、農家さんがオリジナルでブレンドしていきます。
タンクの中を覗くと、なんとも不気味な雰囲気(・・;)
中の温度は20度ほどに保たれ、1日かけて攪拌して泥を作っていきます。



そして、いよいよ泥染めの作業に入ります！
コンテナに積んだイ草を、機械で操作しながら泥の層に漬けていきます。



たっぷり泥に浸した後、コンテナを引き上げてイ草の泥パックの完了です。
加工したイ草は泥にコーティングされ、全体が白っぽくなっています。



この泥染めは、イ草や畳に様々な効果をもたらします。

- ・輝きが均一になり、ムラのない美しい色合いにする。
- ・日焼けによる変色を防止する。
- ・泥コーティングがイ草の表面を保護し、耐久性をアップさせる。

まさに女性の美顔パックと同じように、イ草を強く美しくさせる効果があるのです。



そして、なりより嬉しい効果は、日本人が大好きな「新しい畳独特の良い香り」を生み出すこと。



この泥染めの時に使う染土の香りと、イ草の本来の香りがミックスされ、リラックス効果のある独特な畳の良い香りを生み出すのです。



現在はコンテナや機械が導入されていますが、一昔前は一束ずつ手作業で泥に浸していたのでとても大変な作業だったそうです。



着色剤を使わず、天然染土でイ草本来の色合いを活かす泥染め

お客様に喜ばれる、国産畳の良さは農家さんのこういった工夫や手間暇によって生み出されていることを知ることができました。

～研修 1 日目 終了～

(研修2日目) 早朝3時からの窯出し・窯入れ

研修2日目は、まだ日も昇らない早朝（午前3時）から作業開始。
刈り取り時期のイ草農家さんは、昼間の強い日差しと暑さをさけるため、ご家族全員で毎日早朝から作業をされます。



泥染めの後、乾燥させたイ草を袋に詰めていく「窯出し」をお手伝いします。
乾燥した泥の粉が部屋中に飛び散るため、マスクをつけていないと作業ができません。



袋詰めしたイ草を全て担ぎながら倉庫に積み込んでいきます。
かなりの数と重さです(^_^;)



そして、昨日刈りとって泥染めしたイ草を乾燥室に搬入する「窯入れ」。



このイ草は半日をかけ、窯の中でじっくりと乾燥させていきます。



気づくと外は明るくなっていました。

朝早くから続く重労働に、疲れどころか眠気も一気にふっ飛びました。



朝ごはんを食べた後は、すぐに田んぼへイ草の刈り取りに向かいます。

2日目ともあって慣れてきたねと言ってもらえました(^o^)



私に刈り取りを教えてくれていた農家の息子さんは少しコワモテな印象でしたが、実際にはとても優しい方で、毎年この時期は会社のリフレッシュ休暇をとって実家のお手伝いをしているそうです。

イ草の収穫はまさに家族全員参加のチーム戦です。



その後、明日の刈り取りに備えて、伸びたイ草が倒れないように張っていた“網掛け”の網を外していきます。



網掛けをするときには、倒れないように木の杭や黒い棒をしっかりと打ち込んであります。そのため打ち込んだ杭を抜き、張っていた網を外していくのも一苦勞です。



刈り取る機械を入れるスペースを作るため、一株一株鎌を使って手作業で刈って行きます。



手を切らないように注意しながら、私も貴重な手作業での刈り取りを教えてもらいました。一昔前は機械を使わず全て手で刈り取っていたと思うと、昔の人は凄いと思います。



午前中の作業が終わり、やっとこさお昼ごはん。
地元の人に愛される八代の有名店。
ちゃんぽんが大人気の「みやべ食堂」へ連れて行ってもらいました。



野菜炒めのような大量の具にソースをぶっかけて食べるお店オリジナルのちゃんぽん麺はめちゃうちゃ美味しかったです(*^▽^*)
たくさん働いた後のご飯は格別ですね。

気分的にはもう夕方6時くらいの感覚なのですが、まだお昼という現実。
午後からもハードで濃密な研修が続きます。

八代市イ草農家さん巡り

2日目の午後は、八代市のイ草農家さんを訪問していきます。
まず訪問したのが綿田好孝さんです。



綿田さんは、八代のイ草農家さんの中でも大規模な施設と設備を整えていらっしゃいます。
刈り取って、乾燥させたイ草を畳表に織る作業をされていました。
大きな作業場の中で織り機が一斉に稼働する光景は壮観です。



年代物の古い機械がカタカタと稼働し、畳表が織り上げられていく姿は、なんだか男心をくすぐられ思わず見入ってしまいます。



畳表に織る前のイ草は、奥様が手作業でチェックしていました。
折れた草や、質の悪い草がないかを目視で確認していきます。
地道で細かい作業に、「目と首が痛くなっちゃうのよー！」と笑顔で仰ってました。



次に、織りあがった畳表のチェック。

綿田さん自らが畳表の仕上がりを確認して、産地表示の印鑑を押していきます。
当店に届く畳表は、こうした地道な品質管理を経て作られているんですね。



綿田さんには、今回の八代イ草研修のムービーを作るためにインタビューにもご協力いただき、突然のお願いにも関わらず快く引き受けて下さいました。

「熊本のイ草農家の現状をお客様に届けて下さい！」と力強く仰っていたことが印象的で、私も畳屋の一人として、八代の生産者の想いを少しでも多くの方にお伝えできたらと思います。



次は、イ草農家さんの事業組合「松品会」で事務局をされている瀬海秀人さんです。
元イ草生産者で、現在は生産者のサポートや取りまとめなどをされており、若手の農家さん達にとっても慕われている“兄貴分”のような方でした。



瀬海さんに見せて頂いたのが、とても珍しい「無染土のイ草」です。



研修1日目で体験させていただいた「泥染め」ですが、染土がつくことにより、

- ・イ草に付着した泥の粉が畳表に残り、から拭きした際に付着することがある。
- ・泥に対し、アレルギーを持つ方には不向きな場合がある。
- ・泥の粉がカビの原因になる。

などのデメリットもあります。

そこで、近年の研究による乾燥技術の発展で実現されたのが、この泥染めをしないイ草を使った「無染土畳表」です。



泥染めをしないことで上記のようなデメリットを防ぐことができ、刈り取ったイ草の艶がそのまま現われるので高級感のある仕上がりになります。



染土の無い畳表は草の顔が隠れず見えてしまいますので、田んぼの中でよく育った「長くて綺麗な厳選されたイ草」しか使われません。泥染めを施したイ草がお化粧を施した畳表と言えるのに対し、無染土畳表はイ草本来の素材を活かした「すっぴん美人な畳表」と言えます。



室町時代から始まった八代のイ草作りは、500年の歴史を経た現在においても新たな技術を活かした挑戦が行われているのです。



最後に訪れたのは、「市松畳表」を専門に作っている佐伯壽さんです。



市松畳表は、畳の表面が市松柄の模様をしている特殊な畳表です。
イ草の「穂先の青さ」と「根元の白さ」を利用し、長い草と短い草を交互に編みます。



佐伯さんは八代でも珍しい、柄がより細かい『市松目積表』を専門で製作されています。
美しい市松模様が畳表にできるよう厳選したイ草を選び、毎年数ミリずつ模様の形を変えて織られているそうです。



これにて、イ草生産者さん巡りは終了。
今回の研修を通じて、ここでは紹介しきれないほど沢山の方たちとお会いし、話を聞くことが出来ました。



多くの出会いと共に、多くの学びを得ることができました。
教えていただいた事は、しっかりとお客様にお伝えしていきたいと思えます。

～研修2日目 終了～

(最終日) 指定障がい者支援施設 くすのき園

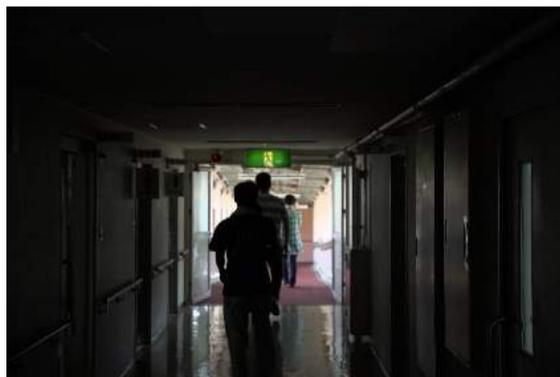
研修最終日は、宇城市にある「指定障がい者支援施設 くすのき園」を訪問しました。昭和56年の開園から作業品目として特産品であるイ草を使い、様々なイ草製品の製造を行っています。



当社がイベントで出店している「和雑貨くらぶ」でも、くすのき園で作られた製品を販売しており、茨城のお客様にもご好評いただいています。



職員の方に施設内を案内していただき、最初に向かったのは織り機のある製造工場です。



広大な工場内に13台もの自動織機が並び、想像以上の規模に驚きます。



イ草の心地よい香りの中で何台もの織機が稼働し、染付されたカラフルなイ草使い様々な模様の上敷きや花ござが製造されています。



コンピュータを使って作られる花ござは、水玉から可愛らしいイラストまで豊富な種類の模様を作ることができるそうです。

このござを敷いてお昼寝したら、イ草の香りに包まれて気持ちよさそう(*^▽^*)柄の細かなところまで作り込まれた仕事に、皆感心しきりでした。



機械操作や細部に手を加えたり、製造されているのは利用者の皆さんです。真剣な眼差しで製品と向き合っている姿がとても印象的でした。



次に、もう一つの作業場を案内していただきます。こちらで作られているのは、**コースターやミニ畳**などの雑貨や小物が中心です。



利用者の皆さんが手作業で作っています。

とても細かな作業ですが、一つ一つ丁寧に心を込めて作られているのが伝わってきます。



こんなところにも『くまモン』が！（^◇^）

やはり熊本名物のくまモンが入った製品は、日本中のお客様に好まれるそうです。



作業の工程を職員の方が熱心に説明して下さいました。

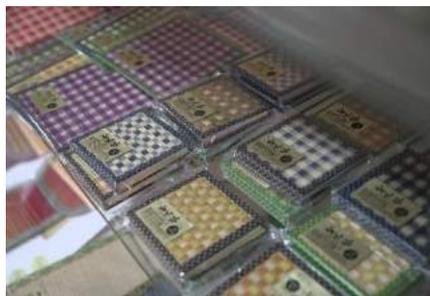
イ草の需要が年々減っていく中で、様々なアイデアでイ草製品をお客様に楽しんでいただきたいと思いますという熱意を感じました。



最後は、施設内にある販売コーナーへ。

こちらには、くすのき園で作られた様々なイ草製品が並べられています。

イベント用に、新商品の「くまモンイ草コースター」を購入させていただきました。



いつも熊本から送っていただいていたイ草製品が、こんなに手間暇をかけて作られていたことを知り、とても有意義な見学となりました。

くすのき園のイ草製品を、茨城で販売させていただける事をととても誇りに思います。

～研修終了～

(番外編) 半年ぶりの熊本城 そして益城町へ

3日間の研修はこれにて無事終了！

残りの時間を利用して、昨年も訪れた熊本城を再訪するために熊本市に向かいます。途中で、震度6強の地震に見舞われた宇土市役所に立ち寄りしました。



築50年以上が経過し、まさに建て替えを検討されている時に地震に襲われました。4階部分が押しつぶされて、倒壊寸前の為に立ち入り禁止になっています。



耐震性の問題を以前から指摘されながら、財政難で建て替えを見送られてきたとのことですが、死者やけが人がでず本当に良かったなと思います。



現在は解体工事が始まり、一時的に体育館などで業務を行いながら「市庁舎再建寄付金」を集うなどして庁舎の再建の方法を模索しているそうです。市民の皆さんのために、新しい庁舎が再建される日が早く来てほしいと思います。

宇土市を後にし、ついに半年ぶりに**熊本城**を訪れました。
(※以下、今年の訪問時の写真)



前回は熊本のシンボルである雄大な姿にとても感動しましたが、やはり震災の影響は大きく、実際に被害を受けた姿を見るととてもショックでした。



多くの場所が立ち入り禁止となり、敵を寄せ付けない迫力のある「武者返し」と呼ばれる石垣や屋根瓦なども無残に崩れていました。



周囲から熊本城を眺めたあと、ふもとにある「**桜の馬場 城彩苑**」に向かいます。
歴史体験と城下町独自の食文化、ものづくりに出会うエンターテインメント施設です。



熊本の総合観光案内所や歴史文化体験施設「湧々座」、23もの飲食店・名産品販売店が並び、はじめて熊本を訪れた方には特におすすめのスポットです。



敷地内を散策していると、建物から何やら大きな物体が出てきました。
あれは熊本市公式キャラクター「ひごまる君」ではないですか！



この日は平日であいにくの雨だったにも関わらず多くの観光客が訪れ、ひごまる君と相棒のありさお姉さんが、息ピッタリの歌とダンス、軽快なトークで楽しませてくれました。



まだまだ復興道半ばの熊本城ですが、スタッフの皆さんの
「来てくれたお客様に、精いっぱいのおもてなしをしよう！」
というお気持ちが伝わってきます。



復興に向けた熊本の皆さんのエネルギーを体感することができました。
日々再建への取り組みが行われている熊本城にまたいつか再訪することを誓い、その時
また新たな熊本城の姿を楽しみにしたいと思います。
ぜひ茨城の皆さんにも一度お越しいただきたいです！



熊本城を後にし、帰路につくために空港のある益城町に向かいます。途中、今回の地震で最も揺れの大きかった益城町の街中を車で通ると、震災で破壊された街並みの被害の大きさに圧倒されます。



建物の一階部分は潰れ、多くの家が全壊、半壊の大きな被害を受けています。テレビで何度も見た映像でしたが、実際に見ると日本中でいつ起きてもおかしくない直下型地震の猛烈な被害の大きさに恐怖を感じました。



今回の研修では、八代市、熊本市、宇城市、益城町など、多くの熊本の街を訪れました。まだまだ時間は掛かりそうですが、前向きに復興に取り組んでおられる熊本の皆さんの姿にたくさんの勇気をもらいました。



また、八代市でイ草農家さん達を訪れ、イ草づくりの現場に参加し、自分で体験できたことはこれからの豊屋としての仕事観を変える貴重な経験でした。



減少している国産イ草生産の灯を絶やさず、消費者の皆さんに『最高の畳表を届けたい』という思いを持って仕事に取り組む姿に、たくさんの事を学ばせていただきました。



現地でお世話になった瀬海秀人さんに「熊本弁を一つ教えてください」とお願いしたら、「**がまだすばい！（頑張ろう！）**」という言葉を教えてくださいました。



皆さんが丹精こめて作った**熊本産畳表**を扱う畳屋の一人として、八代のイ草の魅力をもっと多くのお客様にお伝えし、今回の研修でお世話になった方々への恩返しをして行きたいと思っています。



そして畳屋として成長して、また必ず熊本を訪れたいと思います！！



がまだすばい！！
熊本！！

おわり

八代市イ草研修SPムービー



付録のDVDでご覧ください!

今回の研修には、動画撮影のプロで「Rainbow Planning Works」代表の伊藤哲弥さんに同行していただき研修の様態を撮影をしていただきました。



畳業界は全くの門外漢にも関わらず、早朝3時の農作業から農家さん巡り、毎晩の皆さんとの懇親会まで、3日間付きっきりで同行してもらいました。



八代市の皆さんのご協力をいただき、撮影ではあのドローンも使い、八代市の上空から撮影を行うなどダイナミックな映像を撮ることができました。



文章や写真だけでなく、よりリアルな映像でイ草作りに取り組む生産者の姿や現場の様子をお客様にお伝えしたく製作させていただきました。



私と伊藤さんの汗と涙(?)、そして八代のイ草農家さん達の熱い思いの詰まったムービーをぜひご覧ください。



動画は付録のDVD、または当店のホームページでご覧になることができます。



ホームページのアクセス方法は、以下をご確認下さい。

- ・パソコン、スマートフォンで「東海村 高野畳店」で検索。
- ・スマートフォンのカメラで以下のQRコードをダウンロード。



動画アクセスQRコード

当店のお客様にも、私が目を見てきたことをぜひ動画で楽しんでいただけたら幸いです。よろしくお願ひ致します！



高野好見畳店

畳を愛する全ての人のために。



お読みいただきありがとうございました。

(有)高野好見畳店

〒319-1106

茨城那珂郡東海村白方607-2

Tel:0800-800-5193 Fax:029-282-3520

Mail:t-koya@ark.ocn.ne.jp

<http://koya-tatami.com/> 東海村 畳で検索

白方小学校
白方コミセン

看板

ここ

ブログ「四代目修行日記」、Facebookページ更新中！